

事務事業評価シート

H26(標準事業)

①基本事項	事業コード	19105-1	事業名	幼児教育推進事業	部名	教育委員会事務局
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	部名	教育委員会事務局	室名	教育研究室
	基本施策	01:子どもたちの学びと健全育成	財	会計	一般会計	
	施策の方向	02:教育環境づくりの推進	務	款	教育費	
	戦略プロジェクト		科	項	教育研究費	
			目	目	教育研究費	

②目的・概要	対象	市内各幼稚園・保育所の幼児と教職員
	目的	就学前の一貫した教育を実現するため、保育所・幼稚園・小学校・中学校の教職員が連携し、きめ細かな支援体制を整え、同時に、小学校への就学を円滑に行うために、新しい保幼のカリキュラムを検討し、実践につなげることを研究する。また、幼児期からの表現力・体力の向上を推進するために各保育所・幼稚園へ外部講師(絵画・運動遊び)を派遣するとともに、幼児教育研修会を開催し、教職員の指導力向上を図る。さらに、幼児期からの生活習慣の大切さを呼びかけるため、保護者用の啓発資料を作成・配布し、家庭教育力の向上に努める。

			24年度	25年度	26年度
③指標	①活動	名称	保幼小中等連携協議会・検討部会・外部講師派遣	計画値	
		補足	保幼小中等連携協議会2回 検討部会(保幼小接続カリキュラム)5回	実績値	
				単位	回
	②	名称	家庭教育啓発資料の配布	計画値	
		補足	・就学時健診時の保護者用リーフレットの配布と説明 ・就学前の「せいかつちやれんじシート」の配布	実績値	
				単位	回
①成果	名称	「せいかつちやれんじシート」に取り組んだ家庭の割合	計画値		
	補足		実績値		
			単位	%	

年度計画				年度実績				
④事業の計画・実績					<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中等連携協議会の開催(1回) ・検討部会の開催(5回)と「保幼小接続カリキュラム(保存版)」の作成・配布 ・来年度就学児保護者への家庭教育に関する啓発資料(早寝早起き朝ごはん、ちやれんじシート)の配布と、昨年度資料の効果についての追跡調査(アンケート)の実施と分析。(2回) ・体力向上に係る外部講師の派遣(公立・私立の保育所、公立幼稚園 53回) ・幼児教育研修会の実施(2回) ・保幼小連携担当者会(小学校ブロック別交流)の実施(17回) 			
	事業費	計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	148	平均給与額×③	
	国庫支出金		2,003	1,847	一般職員人件費 ②	148		
	県支出金				所要人員 ③	0.02		
	地方債				臨時職員人件費 ④			
	その他				受益者負担額 ⑤	0		
	一般財源		2,003	1,847	受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥	
	再掲	翌年度への繰越額						
		前年度からの繰越額						
		総人件費		①	148			
	総コスト		⑥	1,995				

⑤事業の評価	【事業の成果】	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の派遣により子どもたちの体力を向上させる取組を、私立の保育園も含め実施した。専門的な立場からの指導で子どもたちが生き生きと活動し、教員にとっても指導方法を参考にできるため効果の高いものとなった。 ・「保幼小接続カリキュラム(保存版)」を完成させることができた。また、各小学校区別の保幼小連携担当者会を実施し、カリキュラムの運用および、保幼小の連携に向け教職員同士が互いに情報交換を行うことができた。 ・就学を意識した5歳児の保育・教育のあり方の研究に取り組むことができた。また、ちやれんじシートの取組を継続することにより、子どもや保護者のよりスムーズな小学校生活への適応へつながった。 	総合判定	
	【反省点・課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・「保幼小接続カリキュラム」をもとにして全市的な保幼小の連携のシステムを構築し、幼児期からの一貫した教育の推進、家庭教育力向上のための効果的な取組を実施する必要がある。 ・ちやれんじシートの取組実施については、「もともとできていた」ため実施しない家庭もある一方で、配布されたことを覚えていないなど、取り組みに対する意識の低い家庭も多く、どのように周知していくかが課題である。 	A 順調に進んだ	
	【改善の方向性】	<ul style="list-style-type: none"> ・「保幼小接続カリキュラム」などをもとに、亀山市としての保幼小連携の方針について、研修会等で随時伝達していく。特に担当者が変わる園・学校もあることを考えると、その必要性が想定される。 ・ちやれんじシートの配布について、周知や配付の方法を工夫する。 ・各種研修会の講師や内容については、今後も直接指導に生かしたり、効果が出るものを引き続き行っていくようにする。 		
		事業目的の妥当性: 適切	有効性: 適切	最終評価確認者: 教育研究室長 伊達 弘